

ピロリ菌感染症の疑いがある方へ

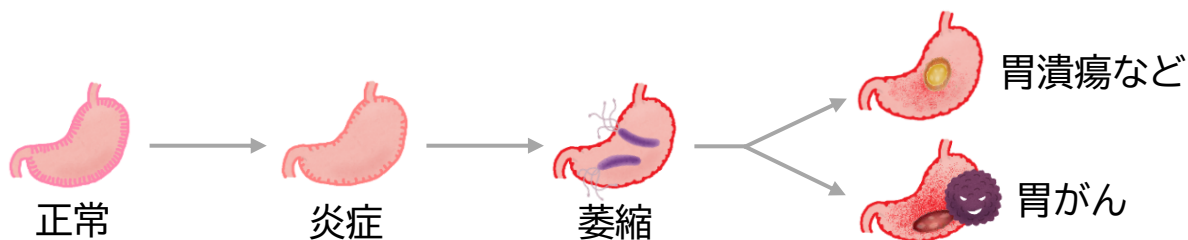
令和3年度よりピロリ菌感染症が疑われた場合、紹介状を発行しています



胃がん検診（胃X線検査）の結果からピロリ菌感染が疑われます。
まずはピロリ菌感染の有無を医療機関でお調べすることをお勧めします。
受診の際は、保険証と紹介状を必ずお持ちください。

ピロリ菌感染は胃がん発症の原因とされています

ピロリ菌は胃の粘膜に感染する細菌です。
この菌に感染するとほとんどの方が自覚症状なく、胃炎の症状が続きます。
これを慢性胃炎と言い、長期にわたると胃粘膜萎縮が進行し、胃がんになるリスクが高くなります。また胃潰瘍など胃の病気にもなりやすくなります。



除菌すると胃がんリスクが30～40%低下します

ピロリ菌はお薬で除菌治療が可能です。
除菌治療を行うことで、胃がんリスクを30～40%低下させるだけでなく、
その他の胃の病気の予防効果もあります。
(除菌治療が出来ない場合があります。医療機関にご相談ください)

医療機関受診のながれ

1. 胃内視鏡で胃の病気があるか診断を行い、血液検査、便検査、呼気検査などでピロリ菌の感染を確認します（ピロリ菌検査の保険適応には胃内視鏡診断が必要です）
2. ピロリ菌感染と診断された方は内服除菌治療を行います（抗生剤などを1週間服用します）
3. 除菌治療後は、時間をおいて除菌判定が行われます
4. 陰性になった後も胃がんの危険性は残ります。定期的に胃内視鏡検査を受けましょう



ピロリ菌が確認されない場合も・・・

ピロリ菌感染が長期にわたると、ピロリ菌が住めないほど胃粘膜萎縮が進行します。
その場合、ピロリ菌検査で陰性となる可能性があります。胃がんになるリスクは高いです。
医療機関に相談し、毎年胃内視鏡検査などを受けることをお勧めします。

